



発行所  
公益社団法人 国民文化研究会  
(九州←→東京←→全国)  
東京都渋谷区東1-13-1-402  
振替 00170-1-60507  
電話 03-5468-6230  
FAX 03-5468-1470  
https://kokubunken.or.jp  
E-mail: info@kokubunken.or.jp  
月刊「国民同胞」編集部  
毎月一回10日発行  
購読料 年間2000円

### 神武天皇の「建国の理念」恢弘のとき

―「大和の理想」を高く掲げて、分断と対立を克服しよう―

中村正和

戦後八十年となる令和七年の今日は、二月十一日の「建国記念の日」を前にして、改めて初代神武天皇の「建国の理念」を恢弘(かひろ)し弘めることすべき年であると思ふ。

「世界で最も古い国はどこか。世界最古の王室はどここの王室か」、また「日本の国は、いつ誰によって、どのような理念の下に建国されたのか」。今日、これらの間に、明確に答へられる日本人はあまりゐるのではないか。

それは、GHQの占領政策によって、神武天皇の「建国の物語」やその御即位も、また神武天皇が示された「八紘(やっしやう)を掩(おほ)ひて宇(う)と為(な)む」(世界の国々が一つの屋根の下で家族のごとく仲良く暮らすことをめざさう)といふ「建国の理念」をも教へることを禁じられ、その状態が続いて来たからである。そして、今日の私たち日本人は、自ら

の根っこである「祖国の起源」も、そして歴代の天皇方が代々担って来られた「建国の理念」も、知らずに生きてゐるのである。

わが国は神武天皇による建国から令和の御代の今日に至るまで、一系の皇統を護持して来た。今、世界各国の興亡盛衰の蹟を顧みるとき、わが国のこの悠久なる歴史は一層際立つのである。

今こそ、子供たちに「日本は世界で最も古い国であり、わが国の皇室は大御宝(おほみたまから)「国民」の安寧を祈って、二千年以上も続いて来た世界最古の王室であり、さらに、日本は世界の人々が『八紘(やっしやう)為(な)む』といふ大和の理想の下で共榮することをめざしてきた国である」といふことを教へなければならぬ。ところで、世界の現状を見ると、今後の国際社会は分断と対立をいよいよ深めて行くのではないか。

グローバルリズムによって経済的強者はさらに富を蓄へて、リベリズムの主張する極端な人権思想は他者への誹謗中傷をさらにエスカレートさせることだらう(リベリズムの波は、LGBTQ、夫婦別姓等をめぐる一部の人達の声高な主張に見られるやうに日本にも及んでゐる)。その一方で、国際秩序はシナ(中共)・ロシア・北朝鮮の覇権主義国家がグローバルサウス(南半球の途上国)を巻き込んで自己の権益の一層の拡大を目指すことで昏迷を深めることだらう。

まさに世界は第三次世界大戦の前夜ともいふべき危機的状況に直面しつつある。かうしたことを考えると、わが国を取り巻く内外の情勢は、非常時の一歩手前であると言つてもいい。

かつて、明治天皇は慶応三年に「諸事神武創業ノ始二原キ」とする「王政復古の大号令」を渙発され、翌明治元年には「五箇條の御誓文」を示されて「我國未曾有ノ變革ヲ為サントシ、朕、躬ヲ以テ衆ニ先ンジ、天地神明ニ誓ヒ、大ニ斯國是ヲ定メ、萬民保全ノ道ヲ立テントス」との新政の基本方針を明らかにされた。黒船来航に起因する独立の危機といふ国難に際し、まさに神武天皇の「建国の理念」

が確認されたのであった。

そして今また、神武創業における「大和の理想」の復興が求められてゐる。この「大和の理想」は、分断と対立を煽るリベリズムが唱へる口先だけの「世界平和」とは対極にあるもので、「内なる徳」に根ざしてゐる。天照大神が皇孫に託された「三種の神器」の御教へ(鏡「英知」、勾玉「慈愛」、劍「勇氣」)に窺はれるやうに「神ながらの道」に連なるものである。それは、我欲を捨てて己を慎む礼節と、相手を敬ひ人のために己を尽くす仁愛とによって生まれる大いなる和の精神のことである。これこそ、神武天皇以来、義と惻隱の心を重んじるわが国の武士道が求めて来たものであり、人類を和合へ導く確かな道なのである。

世界の分断と対立、暴力と争ひといふ危機的状況において、真に貢献できるのは「日本人」だけではなからうか。今こそ日本人は、「和」を人類の理想として掲げて、世界を導く燈火とならなければならぬ。私たち日本人には、神武天皇の「大和の理想」を人類を導く燈火として、ひとり「一燈を提げて暗夜を行く」(「言志四録」)がごとき使命があるのである。

(元神奈川県立高等学校教諭)